

揖斐川水源地域ビジョン策定会議（第8回）

配付資料一覧

資料1 揖斐川水源地域ビジョン策定会議（第8回） 議事次第

資料2 揖斐川水源地域ビジョン策定会議（第8回） 出席者名簿

資料3 揖斐川水源地域ビジョン（素案）

参考資料 「揖斐川水源地域ビジョン（仮称）」中間とりまとめ

資料 1

揖斐川水源地域ビジョン策定会議（第8回）

日時：平成18年12月25日（月）15:00～17:00

場所：KKRホテル名古屋 3F 「芙蓉の間」

議 事 次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 議 事

(1) 揖斐川水源地域ビジョン（素案）について

(2) その他

4 閉 会

資料 2

揖斐川水源地域ビジョン策定会議（第8回） 出席者名簿

分類	氏名	所属	備考
学識等委員	高木 不折	【座長】名古屋大学 名誉教授	
	安藤 辰夫	自然学総合研究所 副所長	欠席
	葛葉 泰久	三重大学生物資源学部 教授	
	下垣 真希	ソプラノ歌手・名城大学大学院 講師	
	重網 伯明	シルバー総合研究所 理事	
	戸松 修	岐阜大学応用生物科学部 教授	
	中村 浩志	信州大学教育学部 教授	欠席
	水尾 衣里	名城大学人間学部 助教授	
産業等委員	大野 睦彦	社団法人中部経済連合会 常務理事	
	森 泰朗	揖斐郡森林組合 組合長	
	三輪 幸恵	財団法人いびがわ 事務局長	
	渡辺 信行	NPO 揖斐自然環境レンジャー 理事長	
行政等委員	小川 敏	大垣市 市長	欠席
	渥美 智康	大垣市 技監	代理
	渡邊 俊司	愛知県地域振興部 部長	欠席
	早川 吉夫	愛知県地域振興部 水資源監	代理
	村林 守	三重県政策部 部長	欠席
	辻 英典	三重県政策部 土地・資源室長	代理
	遠山 周二	名古屋市上下水道局 技術本部長	
	加藤 元之	中部森林管理局岐阜森林管理署 署長	
事務局委員	細見 寛	中部地方整備局河川部 部長	
	棚瀬 直美	岐阜県県土整備部 部長	
	宗宮 孝生	揖斐川町 町長	
	河田 直美	独立行政法人水資源機構中部支社 支社長	

資料3

揖斐川水源地域ビジョン（素案）

[日 付]

揖斐川水源地域ビジョン策定会議

揖斐川水源地域ビジョン（素案）

目 次

はじめに.....	1
揖斐川水源地域の特性.....	2
1 自然条件.....	2
2 社会条件.....	4
3 徳山ダム上流域への期待.....	6
ビジョンの背景及び目的.....	9
ビジョンの目標像及び基本方針.....	10
1 目標像.....	10
2 基本方針.....	10
ビジョンの取組方策.....	12
1 目標像実現のための施策.....	12
2 施策への取組.....	18
3 留意事項.....	25
ビジョンの推進方策.....	26
1 推進方針.....	26
2 推進体制の整備.....	26
3 留意事項.....	28
おわりに.....	30

（参考）

アンケートの調査結果

平成18年度のビジョン策定に向けた「試行」の実施状況

徳山ダム上流域のゾーニングの考え方

「揖斐川水源地域ビジョン」の策定経過

はじめに

徳山ダムは、昭和46年の実施計画調査着手以来、35年を経てダム本体の雄姿が現れ、平成18年9月25日には試験湛水を開始し、平成20年3月には完成を迎える予定となっています。

この徳山ダムは、浜名湖の約2倍に当たる6億6千万立方メートルの日本一の貯水容量をもつダムとなるとともに、ダム上流域約254km²は、岐阜県及び揖斐川町が取り組む徳山ダム上流域の公有地化事業（以下「公有地化事業」という。）により、豊富な植物相、希少野生生物をはじめ、豊かな自然環境をもつ水源地域として保全されることとなります。

このような中で、「揖斐川水源地域ビジョン策定会議」では、平成17年10月に設立されて以降、小会議を含め、十数回の会議を開催し、ビジョンの内容を検討してきました。

徳山ダムが完成すると、木曾川水系連絡導水路の具体化により「水」を介してダムの恩恵が広く下流域に及び、また、公有地化事業により、旧徳山村の人々が代々暮らしの中で守り育ててきた豊かな森林が保全され、水源林等としての恩恵も人々が広く享受できることとなります。また会議では、その事業過程の中で、「徳山村」というひとつの村の歴史が終わるという現実があったことに対し、深く想いを巡らすべきことを認識してきました。

このような認識の下、会議では、ダム建設に伴い恩恵を受ける人々が、その恩恵に感謝し、流域全体で取り組むビジョンにしたいと考え、ダムそのものの機能はもとより、流域の豊かな自然環境を流域の貴重な財産と捉え、旧徳山村の人々をはじめ、水源地域だけではなく、治水・利水の恩恵が及ぶ広域の人達が、「みんな」で守り、育て、自然そのものや歴史から学び、多くの人が行き交い、将来に向けてみんなで活かすようなことができればと思い議論を進めてきました。

本ビジョンは、以上の経過の中で、平成18年3月に「中間とりまとめ」として整理した内容を踏まえ、ビジョン策定に向けた活動の「試行」による取組の検証を加えるとともに、中核プロジェクトの選定や推進体制の整備など、ビジョンの取組方策や推進方策について充実を図り、より実効性が高く、また、「みんな」が参画するビジョンとなるよう取りまとめたものです。

揖斐川水源地域の特性

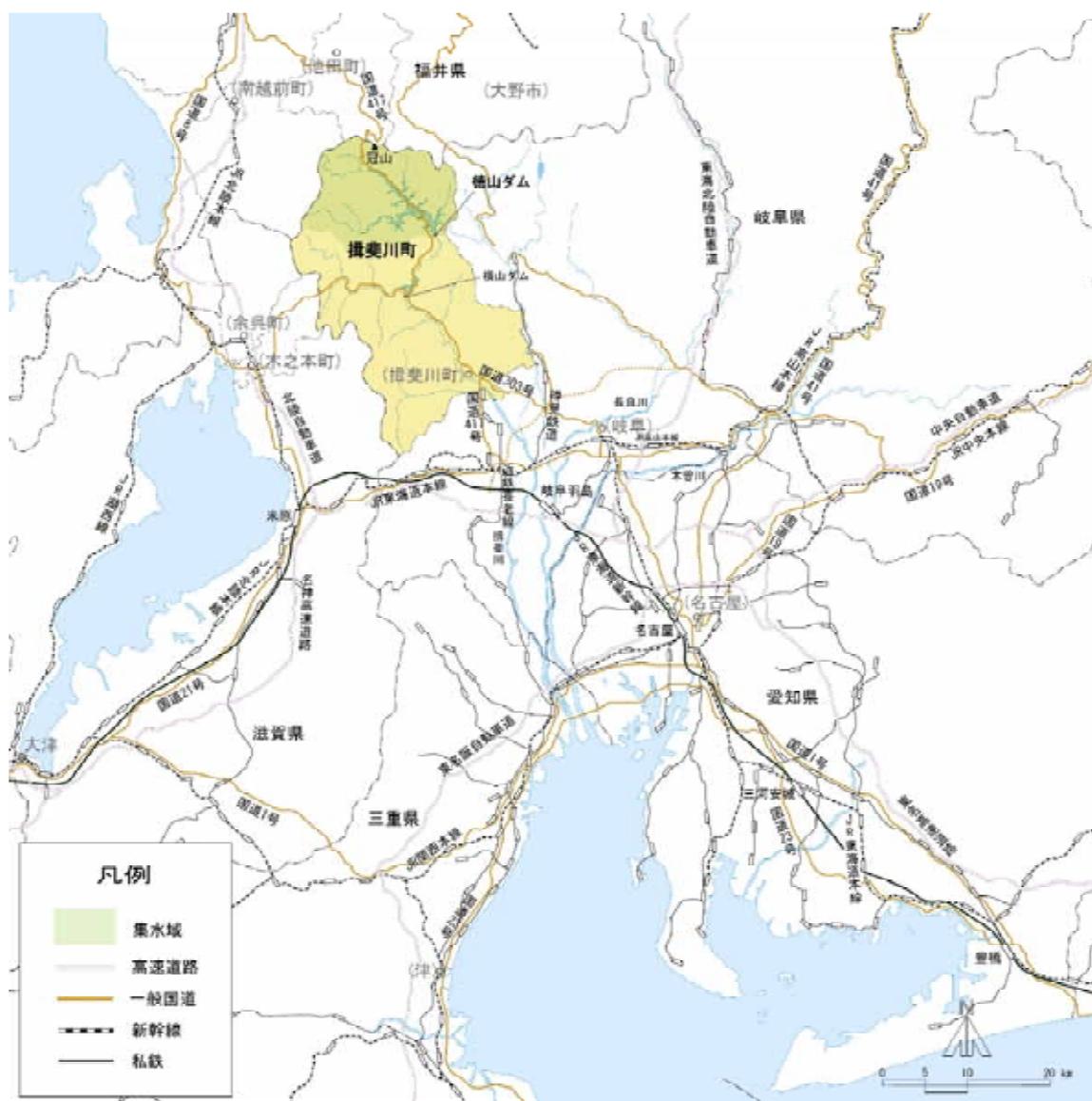
本ビジョンの対象である「揖斐川水源地域」の自然条件や社会条件等の概要、水源地域の核となる徳山ダム上流域への期待など、水源地域ビジョンの展開に際して踏まえるべき特性について、要点のみ示せば、以下のとおりである。

1 自然条件

(1) 水源地域の位置

本ビジョンにおける「揖斐川水源地域」は、徳山ダム上流域を核として、ほぼ揖斐川町に相当する区域であり、岐阜県最西部、揖斐川の最上流に位置し、北は福井県、西は滋賀県に接している。

このうち、水源地域の核となる「徳山ダム上流域」は、ほぼ旧徳山村の区域にあたり、1,200m級の山々に取り囲まれている。



徳山ダム上流域の自然環境

・ 森林（植生）

ブナ林、自然低木林、ミズナラ林、コナラ林等の二次林、スギ、ヒノキ等の人工林が広がっている。このうち、人工林の割合は1割未満であり、日本平均の約4割と比較しても小さく、広葉樹二次林（天然林の利用を繰り返した後に自然力で成立した森林）の割合が高いのが特徴である。

また、揖斐川に沿って北上する暖温帯系要素植物と、両白山地を伝って北から南下する冷温帯系要素植物が混在する地域で、豊かな動植物環境をもつ地域となっている。

・ 野生動植物

植物種約1,800種、動物種約3,200種の多種多様な動植物が確認されており、豊かな野生動植物の生育・生息環境（うち、重要な種は植物38種、動物69種）を形成している。また、イヌワシ、クマタカ等の猛禽類やツキノワグマ等も生息する生物多様性の高い生態系が形成されている。

2 社会条件

(1) 交通

八草トンネル（一般国道303号）の完成により、また、将来的に冠山トンネル（仮称）（一般国道417号）の完成により、水源地域が東海・北陸・近畿を結ぶ要衝になる。

また、岐阜（40km圏内）方面からは車で約1時間40分、大垣方面からは車で約1時間10分の圏内にあり、日帰りの交流圏となる。名古屋（65km圏内）からは3時間弱の圏内になり、日帰りも可能であるが、宿泊圏として活用されることが期待されている。

(2) 観光

観光動向

水源地域には、谷汲山華厳寺を中心に、年間約220万人（平成17年）が来訪している中で、ダムの試験湛水開始後、道の駅「星のふるさとふじはし」への入り込みが増加している。このような中で、八草トンネル、冠山トンネルの完成により、近畿圏、北陸圏等との人や物が行き交う交流の盛んな地域になることが予想されている。

水源地域の観光資源

水源地域には、観光レクリエーション施設として、キャンプ場、温泉資源、谷汲山華厳寺をはじめとする歴史文化資源、自然資源が点在しており、薬草、茶、米など先人の経験や知恵の中で育まれてきた特産品、温泉、清流、満天の星空など豊かな自然の体験や、癒し効果、マラソンなどのスポーツによる健康増進など、健康に関する資源や文化が



存在している。



このような中で、「日本一の水と森」(日本一のダム湖と自然環境豊かな水源地域を形成する森林)からなる徳山ダム及び上流域を活かし、既存の交流ルートを広げる形で、魅力ある交流ルートが形成されることが期待されている。

(3) 旧徳山村の歴史・文化・交流

約4千年前の石器・土器が出土する縄文時代の遺跡が発掘されており、当時から北陸方面・近畿方面と交流もあったことが知られている。また、南北朝の時代には、南朝側に付き争乱に参加していたことも記録されている。

また、産業の中心は農林業で、段木(つだ:短い丸太のままの薪)は、江戸時代から本地域の貴重な現金収入源として貴重であったほか、栃板の生産、山地斜面での焼き畑など、豊かな森林と密接に関わった生活様式を近代まで形成してきた。

このような中で、「徳山民俗資料収蔵庫」には、約6千点の生活用具等が国指定の重要有形民俗文化財として展示・収蔵されており、近代までの生活様式を伝える貴重な資料となっている。

前述のとおり、縄文時代から北陸・近畿との交流が盛んだったと考えられ、平安時代には、敦賀方面から、奥池田、西谷(温見)へ



徳山民俗資料収蔵庫の展示

と塩の道が延びていたと伝えられている。また、室町時代に、池田の誠照寺末寺院の美濃廻国お檀まわり（鯖江～（根尾村）～馬坂峠～本郷～塚から冠峠～）が始められ、鯖江の誠照寺（浄土真宗）を本山とする美濃布教が旧徳山村閉村まで続けられてきた。一方、徳山と余呉（滋賀県）は、洞寿院（曹洞宗）を通じ近世には特に縁が深かったといわれている。

以上のように、豊かな森林を守り育てる生活様式を育む一方で、古くから西や東、あるいは、北と南の結節点となり、時には、戦乱にも巻き込まれてきた歴史・文化をもっている。

(4) 旧徳山村の全村移転と徳山ダム上流域の公有地化事業

徳山ダム建設事業により、旧徳山村の全466世帯はダム下流に移転することになったため、徳山ダム上流域には豊かな自然環境を有する広大な山林が残されることとなった。

この徳山ダム上流域約254km²のうち、公有林やダム事業用地等を除く、旧徳山村の人々が守り育ててきた山林約177km²は、「ダム周辺の山林保全措置制度」を適用し、岐阜県及び揖斐川町が事業主体となり、公有地化事業が実施されている。

公有地化事業により、徳山ダム上流域における水源地の斜面の荒廃が防止されるとともに、良好な自然環境が保全・創出され、また、新たな交流拠点としての活用が期待されている。

ダムで水没する道路の付け替えに代え、地元地方公共団体等がダムの周辺山林の取得及び当該山林管理のための施設整備を行う場合に、ダム事業者が付替道路整備費の範囲内で、その費用の一部又は全部を負担する制度

3 徳山ダム上流域への期待

(1) アンケート調査結果の概要

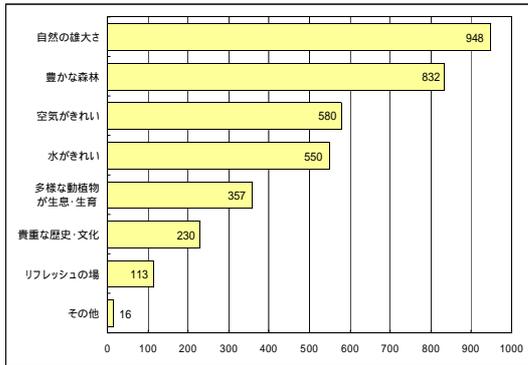
本ビジョンの検討の過程で、徳山ダム上流域の保全利活用に関するニーズ把握等を目的とし、各種のシンポジウム、イベント等の場で、アンケート調査を実施した。

アンケートの結果、徳山ダム上流域は、自然が雄大、豊かな森林が広がる、空気や水がきれいというイメージがあり、ニーズとしては、森林浴やウォーキング、自然観察や水とのふれあいなど、徳山ダム上流域の豊かな自然そのものを体験することを望んでいることが伺われるほか、ダムそのものにも関心が高く、保全と利活用の取組にダムを活かすことが肝要である。また、自らの活動に関しては、イベント等の機会に訪れたいという関心が高いほか、体験学習やボランティア活動への参加といった能動的な関心も合わせて2割から3割の人が意識している。

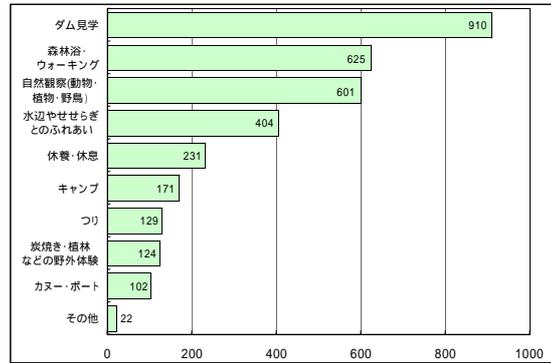
以上のような傾向は、都市と地方の別、行ったことがある人とない人の別、年齢別、性別等でも大きな違いはみられず、徳山ダム上流域に対する一般的なニーズといえる。

アンケート結果の概要

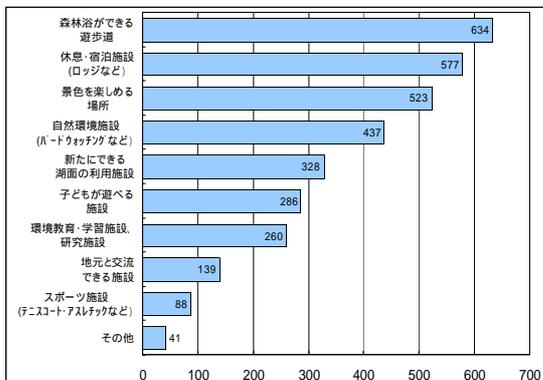
Q1. 揖斐川上流域の魅力についてどのようなイメージをお持ちですか。



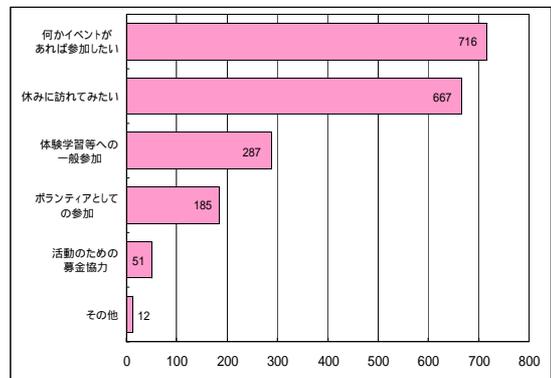
Q2. 揖斐川上流域を訪れるとしたら何がしたいですか。



Q3. どのような施設があれば、より魅力的になると思いますが。



Q4. どのような活動であれば参加しても良いと思えますか。



注) 1) アンケート回答数 = 1, 4 1 3

2) 徳山ダムシンポジウム、木曾川三川連合水防演習、徳山ダムふるさと湖底コンサート、水道週間イベント、エコ市、徳山ダム工事見学の集い、建設技術フェア2006in中部で実施したアンケート調査結果である。

(2) 専門家の意見

本ビジョンの検討の過程で、ビジョン策定に向けた取組の「試行」として、専門家(エコツーリズム・学校教育・旅行会社・ボーイスカウト・ウォーキング・森林セラピー・NPO・マスコミ・学術研究の各分野)へのヒアリング、アンケート調査等を実施した。

主な意見は、

- ・ アクセスルートに制約があるものの、豊かな生態系を形成しており、生物多様性や保全活動をテーマとしたエコツーリズム、カヌー等による湖面からの動物ウォッチングなどは有望である。

- ・ 総合学習への活用にあたっては、下流市町は取り組みやすい。具体的なプログラム等ができれば検討できる。名古屋からは時間的な制約があり、宿泊での行程とする必要がある。また、生徒の関心を維持するため、体験型(例えば、木工、カヌーなど)や人との交流(旧徳山住民やダム専門家など)を組み合わせる必要がある。



- ・旅行のツアーとしては、イベントとの組合せや、ダムや水源地域の水と森を対象とした学習（例えば「親子」）・社会見学という切り口が有効ではないか。清潔なトイレやおいしい食事などは事業化の重要な条件となる。
- ・ボーイスカウト等の野外活動の場として、徳山ダム上流域のありのままの自然は魅力的であるが、宿泊施設、キャンプの際の水、雨天対策（避難小屋等）などは最低限必要である。また、ダム上流域に、キャンプできる場所、湖面利用できる場所、観察ルートが欲しい。森林づくりや、民具を使った生活体験、ものづくりなどの体験プログラムができるとよい。
- ・森林セラピーやウォーキング等は、健康への需要が高まっているので、ロード（歩道）があれば有望である。
- ・徳山ダム上流域についてはNPOとしても関心をもっており、どのような活動に関わって欲しいのか具体的に提案するとともに、インターネット等で活動内容等の情報を発信して欲しい。
- ・徳山ダム関連において、例えば、親子でダムの役割を学習する活動など、報道等の題材となる取組に期待している。

等であり、おいしい食や文化等の地域資源を活用しつつ、豊かな自然環境そのものを活用した施策の展開が有望であると考えらる。

また、中部圏91大学・246学部で研究フィールドとしての活用についてアンケート調査を実施し、宿泊施設や簡易な作業室等があれば、「関心がある」とする回答が30大学・40学部・66研究室あり、研究フィールドとしての活用の可能性も認められる。

ビジョンの背景及び目的

徳山ダムは、「揖斐^{さきもり}の防人」として揖斐川流域47万住民の生活を脅かす洪水の被害を軽減し、「中部の水瓶」として揖斐川の豊かな恵みを、利水や発電などに有効に活用するダムである。また、清らかな水の流れを守るための目的も併せもつ多目的ダムであり、完成すれば貯水量日本一のダムとなる。これらは、将来の木曾川水系連絡導水路と一体となって、中部圏に広がる流域にとって、「生命」「暮らし」「産業」を支える骨格となる。

徳山ダムでは、ダム建設の過程で、ダム上流域の野生動植物の保護・保全の観点から、付替道路のトンネル化をはじめ、いろいろな環境保全対策を講じてきている。さらに、他のダムでは例をみない規模で山林の公有地化を行っており、森や水と深く関わった旧徳山村の住民が守り育ててきた森林が、豊かな自然環境をもつ水源林として保全されることになる。いわば、旧徳山村住民をはじめ、広域の人達が主役として関わる、日本一大きなダム湖と広大な水源林が織りなす「水と森の自然博物館」として、「日本一の水と森」からなる活動の舞台が出現することになる。

こうした状況を踏まえ、ビジョンでは、ダムが担う新たな機能と旧徳山村の歴史と生活が培ってきた水と森を、流域全体の財産として捉え、水源地域だけでなく、治水・利水の恩恵が及ぶ広域の人達が参画し、その保全と利活用を図っていくことを基本的な使命とする。また、福井県、滋賀県等の周辺地域、更には日本全体という広域的な視点も踏まえ、多くの人たちの交流と連携を促進しながら、徳山ダムの大切さや水と森を守る重要性への認識や、旧徳山村民466世帯への感謝の気持ちの下、流域みんなの思いが相互に支え合う流域文化の創造に向けた取組を展開し、水源地域の持続的な活性化を図っていくことを目指す。

ビジョンの目標像及び基本方針

1 目標像

章の揖斐川水源地域の特性、 章のビジョンの背景及び目的を踏まえ、「揖斐川水源地域ビジョン」においては、ビジョンの目標像を次のとおりとする。

日本のどまん中を支える日本一の水と森が織りなす流域文化の創造

- みんなで守り、学び、やすらぐ、日本一元気な流域を目指して -

2 基本方針

上記 1 に掲げた目標像に向けて、以下の基本方針の下、ビジョンの取組方策及び推進方策を具体化し、ビジョンの取組を展開する。

(1) 揖斐の防人・中部の水瓶としての上流域の環境を、みんなで守り育てる

[内 容]

「水のつながり」により徳山ダムの恵みは三県一市（愛知県、三重県、岐阜県及び名古屋市）に広く及ぶことを踏まえ、ダム湖及び上流から下流までの河川の水環境、多様な動植物が生息・生育する豊かな森林、森と水が織りなすダム湖の景観等を流域共通の財産と位置付け、ダム機能や流域環境の保全に取り組む。特に、徳山ダム上流域については、日本一のダムの建設と日本一の規模の公有地化事業により、人間が近くに居住しない新たな自然環境が出現することになるが、他に例をみない事例として研究、データの蓄積等に取り組むとともに、水源地域だけでなく、流域みんなが参画した保全のための取組を展開する。

(2) 自然の叡智や風土など水源地域そのものを「水と森の自然博物館」として、学び、やすらぐ

[内 容]

自然を活かし、自然に学ぶ観点から、水源地域全体を「水と森の自然博物館」とし、学び、やすらぎ、交流する場等として活用する。森の四季の変化や星空（目）、おいしい水（舌）、梢のささめきや「静けさ」（耳）、おいしい空気（鼻）、清冽な風（肌）など、五感に訴える地域環境そのものをまるごと活かした取組を展開する。これらを基本とし、水源地域の持続的な活性化という観点から、流域みんなが参画する様々な取組を通じて、多くの人たちが行き交う場所とする。

(3) 流域ぐるみで協働し、流域文化の創造と展開を図る

[内 容]

旧徳山村の住民の方々の尊い協力の上に徳山ダムが成立すること、また、治水に加え、徳山ダムの機能が「水のつながり」を通じて広く三県一市の圏域にまで及ぶこと、さらには、水源地域の水質保全への取組等について、流域全体で認識を共有し、上下流の双方の思いが体现される流域文化を展開する。また、「まず知ってもらおう」ための広報など、多様なPRに取り組むとともに、水源地域だけでなく、流域住民、流域外の周辺地域、行政機関、教育関係者、NPO、ボランティア団体、民間企業など、縦横の広がりを念頭に、多くの主体が参画した流域文化を育む。

ビジョンの取組方策

1 目標像実現のための施策

(1) 施策の構成

ビジョンの目標像の実現を図るため、基本方針を踏まえ、ビジョンに位置づける施策については、

日本のどまん中を支える大切な自然環境の保全

日本一の水と森に学び、やすらぐ場としての活用

広域で継続的な交流・連携の推進

水源地域の魅力を活用した産業の振興

みんなが支え、みんなを支えるための取組の推進

という5つの柱を基本として構成するものとする。

具体的な施策については、次に掲げる「考えられる施策」のとおりであるが、これらの施策は、次章に掲げる推進方策により、「揖斐川水源地域ビジョン推進協議会（仮称）」（以下「推進協議会」という。）等の場で、それぞれの施策に関連する主体相互で調整しつつ、具体化を図るものとする。

(2) 「考えられる施策」

上記(1)の構成に沿って、それぞれの柱ごとに施策を掲げれば、以下のとおりである。なお、枠内が「考えられる施策」であり、強調している施策は、後述する「中核プロジェクト」である。

日本のどまん中を支える大切な自然環境の保全

(主な取組方向)

流域及び水源としての水環境を保全するため、個々の水質対策や濁水対策などを行うとともに、下流河川の清流の確保や河川環境の改善に取り組み「川らしさ」を復活

水環境の保全

- 1)ダム湖の水環境の保全に取り組む。
水質の監視・調査（流域一斉の水質調査）の実施、指導体制の強化
ダム湖の水質監視（汚濁等）や流木対策
- 2)下流河川の水環境の保全に取り組む。
下流河川の水質監視（汚濁等）
下流河川の自然復元
- 3)下流河川における瀬切れ区間の解消を行う。
正常流量の確保
- 4)水辺及び流入河川等の生物生息・生育環境の保全・創出を行う。
ダム湖周辺の環境保全対策（保全・回復・復元、ビオトープ）
・生き物の生息環境に配慮した水辺の環境整備
- 5)おいしい水としての清流確保への取組を行う。
森・川・海の連携した水辺の保全活動の推進（水質保全PR等）
揖斐川の清掃活動の奨励・支援
- 6)無断伐採、ゴミ・廃棄物の投棄防止対策に取り組む。
廃棄物投棄への対応（管理システムの確立）
流域環境パトロール（森林パトロールを含む）

ダム上流域において水源保全・水質保全・土砂流出防止等の重要な機能をもつ森林を保全するとともに、森林の管理、森林の整備等を推進

ダム機能保全のための森林の保全整備

- 1)保全と利活用のためのゾーニングを行う。
保全計画ゾーニング（自然・森林の管理ゾーニング区分）
 - ・適正な保全と利用の調整
法規制等による生態系保全
 - ・砂防指定の検討
 - ・鳥獣保護区の検討、県立自然公園の検討
 - ・保安林の検討
- 2)荒廃人工林の広葉樹林化、針広混交林化等の森林整備を行う。
人工林の整備 ・荒廃人工林の広葉樹林化、針広混交林化等の森林整備
（水源かん養・土砂流出防備等の機能の維持・保全対策）
ダム湖斜面の荒廃防止対策（樹林帯制度の導入による整備等）
森林管理のための作業道
- 3)広葉樹の植樹、間伐に取り組む。
森林の保全・整備（広葉樹の植樹や二次林の間伐等）
- 4)荒廃斜面等の保全対策を行う。
砂防対策
保安林の保全・管理
治山対策

クマタカ等の希少生物をはじめ、野生動植物の自然生態系を保全するため、ダム上流域における野生動植物の生息・生育環境の保全に加え、福井県・滋賀県・岐阜県を跨ぐ広域的な野生動植物の生態系の連続性を確保する取組を推進

自然生態系の保全

- 1)猛禽類をはじめとする野生動植物の保護に取り組む。
猛禽類の保護対策
希少野生動植物の保護
クマ、その他小動物の保全
- 2)外来種の防除対策に取り組む。
ブラックバス等の外来種の移植防止等の対策
- 3)野生動植物の移動空間として生態系の連続性を確保する「緑の回廊」づくりに取り組む。
隣県等を含めた広域から見た自然の保全・「緑の回廊」の連続化

環境調査

- 1)生態系・水文等に関する環境調査を継続的に実施する。
生態系の動態調査
- 2)調査データ等の蓄積を図る。
モニタリング調査や水文調査等の調査データのデータベースづくり

日本一の水と森に学び、やすらぐ場としての活用

（主な取組方向）

総合学習や生涯学習の一環として、ふれあい体験を通じた自然環境保全の重要性や、ダムを通じた治水・利水の機能、また、環境に配慮した土木技術などを学ぶとともに、資料館や語り部等による水源地域における歴史・文化や暮らしなどを学べる場を提供

学習の場の提供

- 1)教育関係者との連携のもと、総合学習や生涯学習等のカリキュラムへの取り込みによる継続性のある体験学習を実施する。
自然生態系の学習

野生生物の観察

森林の保全・整備

「放置した森」「管理した森」による学習・交流の森づくり・森林の環境学習・体験学習（施業体験等）

環境の総合的な学習

プラネタリウム等の活用

- 2) 豊かな自然環境と地域資源の活用により、効果的な学びの環境づくりを図る。（体験学習のためのソフトの充実及び案内体制の整備）

歴史・文化資源デジタルアーカイブ化（記録の保存、後継者の育成、情報発信）

エコツーリズムの推進

- ・自然観察や体験学習のエコツアーの開設（ルートの設定、案内体制の整備）

- ・カヌー等による保全に配慮したエコツーリズム

ダム堤体やダム湖等の見学体験（資料展示、湖上（舟）など見学ルートの整備）

地域資源マップの作成

広く三県一市の経済界を含めた諸団体と連携のもと、豊かな自然環境を活用して、環境等を軸に据えた研修の場等としての利活用を推進

研修の場の提供

- 1) 経済界との連携のもと、企業の新任者研修等への利活用を推進する。

企業の研修（水や森の保全活動等）

- 2) 「自然から学ぶ」を基本に林業体験、森林施業体験等の環境関連研修を実施する。

流域等住民による森林施業体験の実施

- 3) 大学の研究室、サークルとの連携により、各種合宿の場としての利活用を図る。

自然環境、森林、カヌー等のスポーツなどの関連組織への呼びかけ、体制整備

- 4) 研修等による交流の拡大のための研修カリキュラムの充実を図る。

全国から講師を迎えての水と森に関する講演会等の定期的な開催

広大なダム湖の出現による微気象の変化、それに伴う植生等の変化や遷移、あるいは水や土砂などの循環系等の学術研究のフィールドとしての活用をはじめ、調査・観測データの蓄積等を図りつつ、「ここならではの」自然環境に関わる調査・研究を拠点的に展開

研究の場の提供

- 1) 広大な自然や歴史・文化を活用した大学、企業等の研究フィールドとしての活用を図る。

大学・企業の研究者等の調査研究フィールドとしての提供（展示・研究の森、緑の回廊の調査、下流河川の自然復元等）

- ・全国の大学・研究機関への情報提供

- ・受入体制の整備

- 2) 自然の復元・回復や気象等に関する実証実験の場としての研究活動の拠点化を図る。

自然環境の調査・研究活動の支援

自然の過去、現在、未来を理解する資料の保管の場の確保

研究成果の情報発信

水辺空間や森林空間での遊びや森林浴・ウォーキング等を通じて、貯水容量日本一の徳山ダム及びダム湖の魅力を核とした健康とやすらぎの豊かな自然環境を提供

健康づくりと安らぎの場の提供

- 1) 自然環境とふれあい、健康や生活への安らぎを与える場としての活用を推進する。

森林セラピーの推進（森林浴等による健康増進、リハビリテーション等）

ウォーキングコースの設置

文化スポーツ活動の推進（イベント開催、誘致等）

- 2) 葉草園などの活用を図る。

広域で継続的な交流・連携の推進

(主な取組方向)

NPOや一般住民等が広域的に交流・連携し、植樹や間伐の体験等を通して、より良い環境の創造を推進

活動を通じた上下流交流

1) 植林や自然保護活動等による上下流交流を推進する。

環境保全活動の推進

自治体・企業・一般の方々による森づくりの推進

2) ダムイベント・活性化イベント等を実施し、地域交流を推進する。

地域交流・活性化イベント、国際交流（姉妹都市、友好都市との交流）

交流イベント・上下流でのイベント共同開催の推進（上下流交流植樹、森の管理、紅葉狩り、山菜採り等）

郷土芸能・雪などの地域の個性を活用したイベントの開催

揖斐川上流域を教育・学習の場として活かし、小中学生の水、森林等の自然環境について理解を深めるため、教育関係者をはじめ、三県一市の上下流の連携を展開

教育交流の推進

1) 揖斐川上流域を学習の場として活用した上下流交流を推進するため、県市等の教育委員会等との連携を図る。

総合学習の実施を通じた上下流の連携（輸送体制、プログラム・副読本づくり）

滋賀県とは国道303号の八草トンネルで、福井県とは国道417号の冠山トンネルで繋がることになり、この交通ネットワークを利用し県境を越えた相互交流・相互発展のため、広域連携を推進

県境を越えた広域連携

1) 交通ネットワークの改善に伴い、中部圏や近隣県等との自然や歴史・文化を介した人流・物流等の交流の促進を図る。

道路ネットワークの整備

・観光交流拠点の整備

（自然、伝統文化等の地域資源と徳山ダムを結びつけた広域観光ルートの整備）

・道路改良（国道・県道・町道）

公共交通ネットワークの検討（住民、観光客のニーズに対応 等）

水源地域の魅力を活用した産業の振興

(主な取組方向)

人々の交流・連携を呼び起こすとともに、交流・連携を通じた産業活動の活性化を図る観点から、現存する施設の有効活用も図りつつ、魅力ある地域づくりを推進

地域の伝統・文化等の地域資源を活用するとともに、既存の水源地域内外の観光拠点を結ぶネットワークを形成し、地域の魅力を高め、人々が楽しめる場づくりを推進

観光振興

1) 既存施設の有効活用や再生を図りつつ、新たな魅力ある拠点づくりを推進する。

全村移転した徳山村の歴史文化の継承（段木、山村生産用具等の保存、移設、記録等）
旧村民による生活文化の継承（エコツーリズム案内人、語り部、技術習得の場等）
（例）方言、段木（山樵）
集客のための目玉づくり（例）「美しい星」「おいしい水・食」「ヘルシー＋美」「風光明媚（眺望ポイントの紹介、ネーミング）」
看板、サインの規制・統一化による景観保全
施設間の連携利用（入場券の一律化）・地域周遊道路への案内板・サインの充実
優れた景観めぐり（眺望スポットの整備、ルート設定、八景づくり等）
カヌー等の活用

2)多様な自然、歴史・文化資源及び周辺の観光拠点をネットワークで結び、人々が楽しめる場づくりを推進する。

グリーンツーリズムの推進（山樵・木工や炭焼きなど地元生活文化の体験など）

道の駅等を活用した広域観光の推進（地元観光地、施設等の紹介）

3)観光業界との連携のもと、ツアーコースを設定し、観光の振興を図る。

観光会社との連携

魅力的なソフトの充実

4)魅力ある観光イベントを実施する。

観光イベントの企画

5)関係機関と連携して広報活動を積極的に実施する。

流域自治体や企業と連携したPRの展開（観光資源マップの作成など）

また、水源地域の魅力特徴づける特産品等の開発、水や森林等を活用した産業の起業等を展開

新たな産業の振興

1)地域の素材、資源活用による特産品開発、ブランド化及び地産地消を推進する。

特産品づくり・地場製品の流通販売の促進（パンフレット、イベント出品、インターネット販売）

森林を活かした産業の起業（特産品開発の促進）

起業支援の推進（環境エネルギー産業など地域特性を活かした産業の誘致、起業）

2)きれいでおいしい水や豊かな森林を活かした産業を展開する。

地域のおいしい食、郷土料理等の提供、紹介、おいしい水（ブランド化）の売出し

みんなが支え、みんなを支えるための取組の推進

（主な取組方向）

徳山ダム及び水源地域の治水・利水上の役割、必要性、効果、あるいは、森や水の大切さ、おいしい水の源といった内容や、保全活動やイベント等の水源地域の取組等についての情報発信を推進

より一層の上下流交流を推進するため、地域資源のPRや日本一のダムの雄大さのPR等により、水源地域及び上流域における魅力や価値をアピール

情報発信

1)情報ネットワークを確立する。

インターネット等による地域情報、イベント情報の提供

関係機関のHPへのリンクやメルマガの発行

関係機関の広報誌やイベントとの連携

2)保全・利活用に関する積極的な情報発信を行う。

水源地域イベントマップ（歳時記）の作成

3)テーマ性のある効果的かつ継続的な情報発信を行う。

水や森に関する定期的な講演会等の開催

適時・的確な広報計画の作成

水源地域のPRや環境活動を維持発展させるため、指導者・案内人・語り部

などの人材の育成を推進

人材育成

- 1) 保全や利活用において、様々な取り組みを進めるために、新たな人材の発掘や育成を実施する。
 - 地域人材データバンク構築（指導者の発掘、養成）
 - 地域づくり講座等の支援体制の確立（出前講座の充実）
 - 自然公園入山ガイド養成
 - リーダーの養成講座の実施
- 2) **流域住民の参加を促し、みんなで流域を守る体制づくりを推進する。**
NPOや流域住民の活動を支援（場所、資料の提供等）
推進組織への活動協力・支援

気持ち良くやすらぐことの出来る空間環境を維持するため、来訪者に対しても、危険行為、不法投棄、貴重種等採取防止等に関するマナー・モラルの向上対策を推進

啓発活動の推進

- 1) 水源地域の価値や役割の周知、ダムの必要性・重要性を理解して頂くための啓発活動を行う。
 - 公有地化事業の理解を得るためのPRの実施
 - ダムの役割の周知・理解の促進（堤体見学、ボート試乗会等）
 - 水質状況や対応策の広報（HP、パンフ等）の推進
- 2) 自然環境保全のためのマナー・モラルに関する啓発活動を行う。
 - 自然とのふれあいのマナー教室
 - 環境啓発活動の推進（フォーラムの開催、徳山ダム憲章の設定等）
 - マナー、モラル向上のためのマニュアルやガイドづくり

危機管理

- 1) 利用者等の救急対策を充実させる。
 - 救急用ヘリポートの整備
 - 避難小屋の整備
- 2) 台風等による災害、山火事などの自然災害への対策に取り組む。
救急・消防・災害時の連携強化、対策マニュアルの作成

自然環境の保全、学習、研究、健康とやすらぎ、交流や情報発信、人材育成等の諸活動に必要な上下流みんなが活用できる拠点づくり及びそれらを支える仕組みづくりを推進

交流の場づくり

- 1) 上下流みんなが活用できる拠点づくりに取り組む。
 - ビジョンの活動の拠点整備
- 2) 上下流みんなの活動を支える仕組みづくりに取り組む。
推進組織の活動への協力・支援

2 施策への取組

(1) 取組の基本的な考え方

ビジョン策定後、具体的な施策の取組方策について、推進協議会（幹事会を含む。）や「揖斐川水源地域ビジョン推進準備会」（以下「推進準備会」という。）等の場で検討・調整するに際しては、ビジョンの基本方針を踏まえ、次表のそれぞれの基本的な役割を念頭に、後述する「中核プロジェクト」の推進を担う「生命の水と森の活動センター（仮称）」（以下「活動センター」という。）を中心に、徳山ダム上流域の水や森の恩恵が及ぶ広域の関係者ができるだけ参画し、多くの主体の協力の下で取り組めるよう、それぞれが努めることとする。

また、実施段階において、「誰が」「どのように」「いつ」等を明確化し、適切な役割分担と連携を図ることとする。

実施・検討主体としての基本的な役割

実施・検討主体	基本的な役割
活動センター	他の主体の協力・支援を得つつ「中核プロジェクト」を主体的に推進
国	木曾川水系における河川管理をはじめ、それぞれの省庁の所管行政にかかる役割を踏まえ、ビジョンに関連する事業を積極的に推進するとともに、ビジョンに掲げる施策について、広域の視点からの検討・調整に主体的役割を果たす
水資源機構	徳山ダム及び貯水池の管理をはじめ、中部における水資源の開発・管理に果たす役割や徳山ダム上流域の公有地化事業に果たす役割等を踏まえ、ビジョンの取組を積極的に推進するとともに、活動センターの活動を支援
揖斐川町	水源地域を管理・経営する行政としての役割や徳山ダム上流域の公有地化事業を推進する役割等を踏まえ、ビジョンの取組を積極的に推進するとともに、活動センターの活動を支援
岐阜県	水源地域を含め、水源地域の恩恵が及ぶ県土を管理・経営する行政としての役割や徳山ダム上流域の公有地化事業を推進する役割等を踏まえ、ビジョンの取組を積極的に推進するとともに、活動センターの活動を支援
下流市町・2県1市	揖斐川水源地域より治水・利水等の恩恵を受ける立場から、ビジョンに基づく取組について積極的に協力・支援するとともに、活動センターの活動を支援
NPO等	ビジョンに基づく取組にそれぞれの立場で参加・活動支援

注：1)「2県1市」とは、愛知県、三重県及び名古屋市である。

2)「NPO等」とは、NPOのほか、ビジョンに関連するボランティア団体、企業、地域住民、その他団体等である。

(2) 「中核プロジェクト」の位置付け

施策のうち、自然そのものを活かした学習や研修の場としての活用、研究フィールドとしての活用、水や森そのものを活かした健康と憩いの場としての活用など、上下流一体となってビジョンの目標像を効果的に実現できる取

組については、「中核プロジェクト」として位置づける。

なお、この「中核プロジェクト」については、次章に掲げる推進方策により、活動センターが中心になって取り組むものとする。

(3) 「中核プロジェクト」の取組

「中核プロジェクト」については、次章で述べるとおり、平成19年度は推進準備会が主体となって推進し、その後、推進準備会から活動センターに引き継ぎ、平成20年度以降は活動センターが核となって主体的に取り組むことになる。また、それぞれの取組は、一朝一夕に軌道に乗るものではないため、できるところから段階的に取り組み、徐々に内容を充実させていくべきものである。

このため、推進準備会や活動センターで個々に具体的に取り組む「中核プロジェクト」を選択しつつ、推進協議会等による支援・協力等を得ながら、順次、計画・実行・確認の経過を経て、具体化を図っていくこととする。

(4) 「中核プロジェクト」として取り組む施策

日本のどまん中を支える大切な自然環境の保全

施策の内容	方針及び進め方	イメージ
<p>(1) 水環境の保全</p> <p>1) おいしい水としての清流確保への取り組みを行う。 森・川・海の連携した水辺の保全活動の推進（水質保全PR等） 揖斐川の清掃活動の奨励・支援</p>	<p>（方針） 揖斐川流域において行政が主導して行う環境保全活動と連携して実施</p> <p>（進め方） ダム完成前は、湖面・森林の保全活動を主体に展開し、段階的に総合的に取り組んでいく中で更に検討</p>	
<p>2) 無断伐採、ゴミ・廃棄物の投棄防止対策に取り組む。 廃棄物投棄への対応（管理システムの確立） 流域環境パトロール（森林パトロールを含む）</p>	<p>（方針） 行政による環境保全活動やダム管理と連携して実施</p> <p>（進め方） ダム完成前から検討・実施</p>	
<p>(2) ダム機能保全のための森林の保全整備</p> <p>1) 広葉樹の植樹、間伐に取り組む。 森林の保全・整備（広葉樹の植樹や二次林の間伐等）</p>	<p>（方針） 行政による環境保全活動や公有地化事業とも連携して実施</p> <p>（進め方） ダム完成前から検討・実施し、段階的に広域の取組に展開</p>	
<p>(3) 自然生態系の保全</p> <p>1) 外来種の防除対策に取り組む。 ブラックバス等の外来種の移植防止等の対策</p>	<p>（方針） 行政による環境保全活動やダム管理と連携して実施</p> <p>（進め方） ダム完成前から検討・実施</p>	

日本一の水と森を学び楽しむ場としての活用

施策の内容	方針及び進め方	イメージ
<p>(1) 学習の場の提供</p> <p>1) 教育関係者との連携のもと、総合学習や生涯学習等のカリキュラムへの取り込みによる継続性のある体験学習を実施する。 自然生態系の学習 野生生物の観察 森林の保全・整備 「放置した森」「管理した森」による学習・交流の森づくり・森林の環境学習・体験学習（施業体験等） 環境の総合的な学習 プラネタリウム等の活用</p>	<p>（方針） 揖斐川上流域の自然環境そのもの、ダムの役割、歴史・文化等を総合的に活用し、「学びの拠点」を形成</p> <p>（進め方） 「試行」を踏まえ、ダム完成前から検討・実施し、当初は下流市町等を対象に、段階的に広域の取組とし、「水や森の大切さ」等を楽しく学ぶ拠点を育成</p>	

施策の内容	方針及び進め方	イメージ
<p>2)豊かな自然環境と地域資源の活用により、効果的な学びの環境づくりを図る。 (体験学習のためのソフトの充実及び案内体制の整備) エコツーリズムの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然観察や体験学習のエコツアーの開設(ルートの選定、案内体制の整備) ・カヌー等による保全に配慮したエコツーリズム <p>ダム堤体やダム湖等の見学体験(資料展示、湖上(舟)など見学ルートの整備)</p>	<p>(方針) 自然環境そのものを活かした「学びの拠点」づくりと一体的に、体験による学習効果、参加対象の拡大、保全活動との連携を念頭に、「価値」を高める施策として展開</p> <p>(進め方) 「試行」や推進準備会等での検討を踏まえ、ダム完成前から、メニューの整備、参加型広報等PRを積極的に展開</p>	
<p>(2)研修の場の提供</p> <p>1)経済界との連携のもと、企業の新入者研修等への利活用を推進する。 企業の研修(水と森の保全活動)</p>	<p>(方針) 揖斐川上流域の自然環境そのものやダムの役割等を総合的に活用し、「研修の拠点」を形成</p> <p>(進め方) ダム完成前から、企業ニーズの把握、PR等を進め、段階的に「水や森の大切さ」等を学ぶ企業が集う拠点に育成</p>	
<p>2)研修等による交流の拡大のための研修カリキュラムの充実を図る。 全国から講師を迎えての水と森に関する講演会等の定期的な開催</p>	<p>(方針) 情報発信の施策と一体的に展開(研修のカリキュラムにも活用)</p> <p>(進め方) 情報発信の施策と一体的に展開</p>	
<p>(3)研究の場の提供</p> <p>1)広大な自然や歴史・文化を活用した大学、企業等の研究フィールドとしての活用を図る。 大学・企業の研究者等の調査研究フィールドとしての提供(展示・研究の森、緑の回廊の調査、下流河川の自然復元等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国の大学・研究機関への情報提供 ・受入体制の整備 	<p>(方針) 揖斐川上流域を核とする自然科学や社会科学等の研究を誘致し、学術研究の分野において、この地域の社会的な「意義」を高める施策として展開</p> <p>(進め方) 「試行」を踏まえ、運営システムを検討し、ダム完成前から、研究ニーズに対応するとともに、より広域の見地からの研究も含め、段階的に研究拠点に育成</p>	
<p>2)自然の復元・回復や気象等に関する実証実験の場としての研究活動の拠点化を図る。 研究成果の情報発信</p>	<p>(方針) 揖斐川上流域を核とする自然科学や社会科学等の研究を誘致し、学術研究の分野において、この地域の社会的な「意義」を高める施策として展開</p> <p>(進め方) 情報発信の取組と連携を図りつつ、適時・適切なPR活動を展開するとともに、将来的には研究成果を活かし、拠点としての活動を検討</p>	

施策の内容	方針及び進め方	イメージ
<p>(4)健康づくりと安らぎの場の提供</p> <p>1)自然環境とふれあい、健康や生活への安らぎを与える場としての活用を推進する。</p> <p>森林セラピーの推進（森林浴等による健康増進、リハビリテーション等） ウォーキングコースの設置</p>	<p>（方針）</p> <p>自然環境そのものを活かし、自然とのふれあい、健康の増進、ゆとりと安らぎの場としての位置付けを得て、この地域の「価値」を高める施策として展開</p> <p>（進め方）</p> <p>ダム完成前から、森林セラピーロードの認定や、ウォーキングコースの認定等に取り組み、実験的な実施を通じて、運営システムや事業計画を検討し、管理移行後には本格運営を展開</p>	

広域で継続的な交流・連携の推進

施策の内容	方針及び進め方	イメージ
<p>(1)活動を通じた上下流交流</p> <p>1)植林や自然保護活動等による上下流交流を推進する。</p> <p>環境保全活動の推進（自然環境セミナー、森林ふれあい環境の整備等）</p>	<p>（方針）</p> <p>公有地化事業とも連携して、エコツアーリズム等による環境学習、豊かな森林を守り育てる保全活動、野生動植物の保護活動、環境パトロール等の豊かな自然環境を守り、育てる活動と一体的に展開</p> <p>（進め方）</p> <p>ダム完成前から取り組む保全活動、エコツアーリズム等の実施状況を踏まえ、段階的に広域の活動として展開</p>	
<p>2)ダムイベント・活性化イベント等を実施し、地域交流を推進する。</p> <p>交流イベント・上下流交流でのイベント共同開催の推進（上下流交流植樹、森の管理、紅葉狩り、山菜採り等）</p>	<p>（方針）</p> <p>エコツアーリズム、豊かな森林を守り育てる保全活動の体験、ダム見学や星の観察、生活体験（グリーンツアーリズム）など、参加型広報を念頭に、地域資源を有効に活用したイベントを開催</p> <p>（進め方）</p> <p>ダム完成前から取り組む保全活動、エコツアーリズム等の実施状況を踏まえ、より魅力的なメニューの検討を深めつつ、段階的に広域の取組として展開</p>	
<p>(2)教育交流の推進</p> <p>1)揖斐川上流域を学習の場として活用した上下流交流を推進するため、県市等の教育委員会等との連携を図る。</p> <p>総合学習の実施を通じた上下流の連携（輸送体制、プログラム、副読本づくり）</p>	<p>（方針）</p> <p>揖斐川上流域の自然環境そのもの、ダムの役割、歴史・文化等を総合的に活用し、「学びの拠点」を形成するため、下流市町をはじめ、広域の教育関係者と連携</p> <p>（進め方）</p> <p>ダム完成前から、下流市町等を対象に、段階的に広域の取組とし、「水や森の大切さ」等を楽しく学ぶ拠点を育成</p>	

水源地域の魅力を活用した産業の振興

施策の内容	方針及び進め方	イメージ
<p>(1)観光振興</p> <p>1)多様な自然・歴史・文化資源及び周辺の観光拠点をネットワークで結び、人々が楽しめる場づくりを推進する。 グリーンツーリズムの推進(山樵・木工や炭焼きなどの地元生活文化の体験など)</p>	<p>(方針)</p> <p>自然環境そのものを活かした「学びの拠点」づくり、森林セラピー等の健康の安らぎのための取組、豊かな森林や歴史・文化等の地域資源を活用した交流などの取組状況を踏まえ、広く一般からの参加を得るための総合的な取組を展開</p> <p>(進め方)</p> <p>ダム完成前からの多様な取組のうち、民間活力を活用し旅行素材となり得る取組かどうかを常に検討</p>	
<p>2)観光業界との連携のもと、ツアーコースを設定し、観光の振興を図る。 観光会社との連携 魅力的なソフトの充実</p>	<p>(方針)</p> <p>民間活力を活用して地域の「価値」を売り出すための、ネットワークづくり、食事や体験内容などのソフトを充実</p> <p>(進め方)</p> <p>ダム完成前からの多様な取組のうち、民間活力を活用し旅行素材となり得る取組かどうかを常に検討するとともに、ソフトの充実を図り、定期的にツアーとして提案</p>	

みんなが支え、みんなを支えるための活動の推進

施策の内容	方針及び進め方	イメージ
<p>(1)情報発信</p> <p>1)情報ネットワークを確立する。 インターネット等による地域情報、イベント情報の提供 関係機関へのHPへのリンクやメルマガの発行 関係機関の広報誌やイベントとの連携</p>	<p>(方針)</p> <p>各施策を展開する際に、参加型広報に取り組みほか、広報の内容の充実を図るとともに、情報の価値を活かすため、関係機関の協力により情報ネットワークを高度化</p> <p>(進め方)</p> <p>ダム完成前から広報計画を作成し、推進協議会等で協力を得ながら展開するとともに、適時・適切な広報を実施</p>	
<p>2)保全・利活用に関する積極的な情報発信を行う。 水源地域イベントマップ(歳時記)の作成</p>	<p>(方針)</p> <p>各施策を展開する際に、参加型広報に取り組みほか、情報の価値を活かすため、ビジョンの取組を適時・適切にPR</p> <p>(進め方)</p> <p>ダム完成前から広報計画を作成し、推進協議会等で協力を得ながら展開するとともに、適時・適切な広報を実施</p>	

施策の内容	方針及び進め方	イメージ
<p>3)テーマ性のある効果的かつ継続的な情報発信を行う。 水や森に関する定期的な講演会等の開催 適時・的確な広報計画の作成</p>	<p>(方針) 学習の場としての活用、研修の場としての活用、交流の場としての活用、健康と安らぎの場としての活用など、ビジョンの理念に基づく各施策に沿って、日本有数の「水と森」の情報拠点とするための講演会等を開催 (進め方) ダム完成前から講師陣の形成や広報計画の検討に取り組む</p>	
<p>(2)人材育成 1)流域住民の参加を促し、みんなで流域を守る体制づくりを推進する。 NPOや流域住民の活動を支援(場所、資料の提供等)</p>	<p>(方針) 学習の場としての活用、研修の場としての活用、交流の場としての活用、健康と安らぎの場としての活用など、ビジョンに基づく各施策の支える担い手を育成 (進め方) ダム完成前から、NPO等への情報提供など、担い手を確保するための取組を実施</p>	

(「中核プロジェクト」の実施・検討主体)

活動センターが中心となり、国、水資源機構、揖斐川町、岐阜県をはじめ、揖斐川流域市町、2県1市の関係者が連携して取り組むことを基本とし、施策の内容を踏まえ、推進協議会において、実施・検討主体の整備を図ることとする。

また、施策の内容に応じて、森林組合、企業、大学等研究機関、NPO等の各種団体のほか、地元関係団体や地域住民等の参画も得ながら、協働で事業を推進する。

3 留意事項

ビジョンに位置付ける施策のうち、活動センターが中心となる「中核プロジェクト」を除く施策であっても、例えば、法規制を含めた保全と利活用のためのゾーニングによる土地利用調整、荒廃人工林の整備（広葉樹林化等）、野生動物の保護、広域的な生態系の連続性を確保する取組などは、水源地域としての豊かな自然環境そのものを守る基幹的かつ重要な取組であり、推進協議会等の場で、その適切な実施について十分留意するものとする。

ビジョンの推進方策

1 推進方針

「揖斐川水源地域ビジョン」について、目標像の実現を図るため、前章の取組方策を対象として、以下の方針に基づき積極的に推進する。

(1) 徳山ダムに係る上下流の関係者が連携しながら取り組む

ビジョンの推進を図るため、推進体制の整備等を通じて、関係者が、情報や意見を交換しつつ、相互の連携を図りながら、揖斐川流域の保全と利活用に向けた様々な取組を進めていく。

(2) 地域住民グループやNPO法人等の推進の担い手を育成する

ビジョンの効率的、効果的な推進を図るため、ビジョンを中核的に担う組織をはじめ、地域住民やNPO法人等の推進の担い手を育成する。

(3) 実施可能なものから順次、ビジョンの実現に向けた取組を進める

ダム事業完了後、速やかにビジョンの推進が図れるよう、また、目標像の効果的かつ効率的な実現を図るため、ダム事業の完了前から、取組の試行や推進体制の整備など、実施可能なものから順次、積極的に取り組む。

2 推進体制の整備

(1) 推進協議会による取組の推進

ビジョンに掲げる取組方策を着実かつ効率的に推進していくため、「揖斐川水源地域ビジョン推進協議会（仮称）」を、平成19年度の年度当初を目的に設立し、保全や利活用に関わる各般の施策を進めるため、関係者が相互に連携して推進する体制を整備する。

なお、保全対策など、必要がある場合は、推進協議会での検討に基づき、保全対策部会（仮称）等の特定の分野を担う部会を協議会の下に設置する。

また、推進協議会での議論の基礎として実質的な協議・調整の役割を果たすため、協議会に幹事会（担当者レベル）を置く。

推進協議会の構成

推進協議会については、以下により構成する。

[行政関係]

- ・ 揖斐川町・岐阜県
- ・ 国交省（中部地整・横山ダム）・水機構（中部支社・徳山ダム）
- ・ 愛知県・三重県・名古屋市・揖斐川流域市町連合（代表）
- ・ 林野庁（岐阜森林管理署）

[行政以外]

- ・（後述する「推進準備会」で検討・調整）
- ・ 生命の水と森の活動センター（仮称）

推進協議会の役割

推進協議会は、ビジョンに掲げた取組方策の推進を図るため、ビジョンに位置づけた施策の実施状況を確認し、その結果に基づき、各施策の着実かつ効率的な実施のための協議・調整を行う。

なお、必要に応じて、ビジョンの取組方策（施策）の見直しができることとする。

また、着実なビジョンの推進の観点から、後述する推進組織の活動への協力やアドバイスを行う。

推進準備会での検討

推進協議会の活動を効果的に展開していく観点から、後述する「推進準備会」で推進協議会の設立に向けた具体的な組織体制、協議・調整方法などの推進協議会の運営にかかる検討を行う。

(2) 新たな推進組織による取組の推進

取組方策に位置づけた施策のうち、上下流が連携して取り組む「中核プロジェクト」の推進を担う組織として「生命の水と森の活動センター（仮称）」を設立する。

活動センターの組織

活動センターは、当初、事務局長（センター長）ほか数名のスタッフで立ち上げ、その後の増強などについては、事業展開の状況などを踏まえ、自立的に運営していくことを基本とする。

活動センターの役割

「中核プロジェクト」などの具体的な施策について、

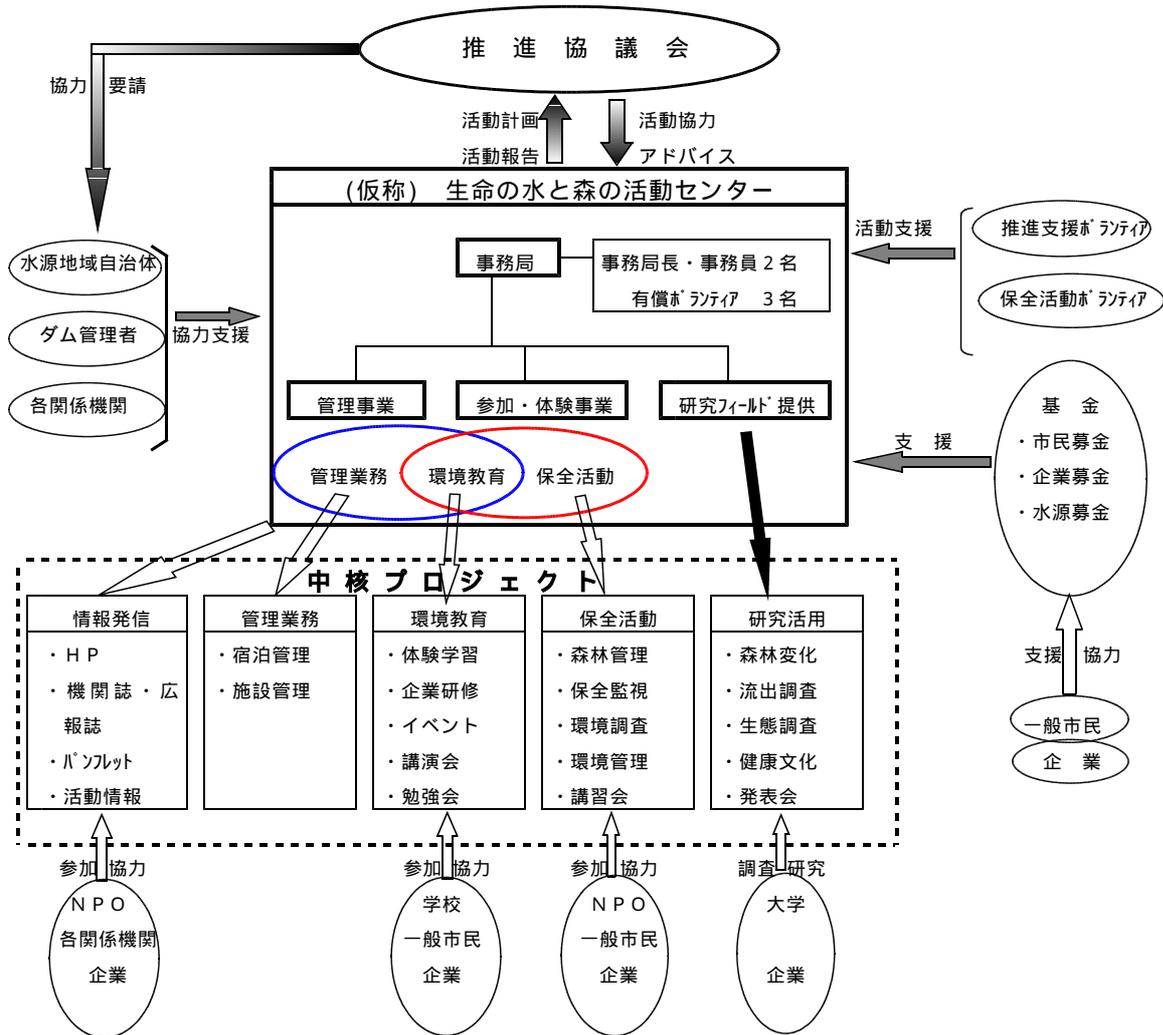
- ・活動計画の企画・立案
- ・ボランティアの窓口・連絡調整
- ・取組に参加する教育関係者等との調整
- ・施設の管理・運営
- ・研究フィールドの提供
- ・ネットワーク・情報発信・PR
- ・意見・要望・ニーズ等の把握
- ・新たな取組内容の検討

等のマネージメント業務を担う。

運営の仕組み

後述する「推進準備会」が主体となって、組織体制のあり方の検討、組織設立後の事業を軌道に乗せるための取組（平成19年度の「中核プロジェクト」の取組など）を進めるほか、事業運営の検討を深め、活動センターの設立を推進する。また、このような検討の中で、持続的な事業運営を図る観点から、平成19年度中に事業運営に係る資金面を含めた所要の仕組みを検討する。

新たな推進組織による「中核プロジェクト」の推進（イメージ）



3 留意事項

(1) 「推進準備会」による推進

ビジョン策定後、当面の間（ビジョン策定後から平成19年度中）、ビジョン策定の事務局（中部地方整備局・岐阜県・揖斐川町・水資源機構）が、「揖斐川水源地域ビジョン推進準備会」として、推進協議会の設立に向けた検討・調整や、活動センターの設立に向けた検討・準備など、ビジョン推進の役割を果たすものとする。

(2) 担い手の育成

ビジョンの総合的な担い手となる活動センターについては、推進準備会及び推進協議会は、センターの活動が軌道に乗るよう、必要な協力を行うとともに、NPO、流域住民、各種団体、企業等がビジョンの取組の担い手となり得るよう、情報提供などの所要の配慮を行うこととする。

(3) ダム完成前からの取組

ビジョンの長期的かつ継続的な取組は、適時・適切な広報活動に加え、早期かつ段階的な取組が重要であることにかんがみ、「参加型広報」の観点を

踏まえつつ、推進準備会において、下記スケジュールに基づき、円滑に活動センターに引き継ぐことができるよう、「中核プロジェクト」の施策のうち実施可能なものから着手するとともに、活動センターの設立や事業運営計画の検討等について、関係機関等の支援・協力の下、積極的に取り組むこととする。

当面のビジョンの推進スケジュール

【平成18年度】

揖斐川水源地域ビジョン策定事務局

・「揖斐川水源地域ビジョン」策定

揖斐川水源地域ビジョン推進準備会

・推進協議会の設立準備

・平成19年度 of 取組計画の策定

【平成19年度】

揖斐川水源地域ビジョン推進協議会

- ・平成19年度 of 取組計画の確認
- ・推進準備会への協力
- ・活動センター設立に向けた協力
- ・その他の協力
- ・各機関等の相互の調整 等

- ・「中核プロジェクト」の推進
- ・活動センターの体制整備
(組織・人選・NPOとの連携 等)
- ・活動センターの事業運営計画の検討
(事業内容・資金手当 等)
- ・推進協議会との連絡・調整
- ・平成20年度 of 取組計画の策定
- ・その他の活動センター設立準備 等

【平成20年度以降】

: ダム供用開始

- ・当年度 of 取組計画の確認
- ・活動センターへの協力
- ・各機関等の相互の調整
- ・ビジョンの検証 等

生命の水と森の活動センター(仮称)

- ・活動センターの設立
- ・「中核プロジェクト」の推進
- ・推進協議会との連絡・調整
- ・次年度 of 取組計画の策定 等

おわりに

揖斐川水源地域ビジョン策定会議では、平成17年の10月以降、小会議を含め、十数回の会議を開催し、「揖斐川水源地域ビジョン」の検討を進めてきました。この議論の過程では、旧徳山村の住民の皆さんの気持ちを大切にすること、社会資本として整備するダムや公有地化される豊かな自然環境を、流域、中部、更には日本といったような、より多くの「みんな」の財産として守り、育て、活かすこと、あるいは、自然環境の保全に加え、自然そのものから「学ぶ」場とすること、この地域の価値をより深めることなど、多岐に亘る議論を行ってきました。

今回、策定会議において本ビジョンを策定したわけですが、本当の課題は、これからビジョンの目標像をどのように実現していくかにかかっていると考えています。また、このビジョンは、決して完成されたものではなく、その時々、社会情勢やニーズに応じて、また、いろいろな取組を通じて、ビジョンそのものも「みんな」で考え、育てられていくべきものと考えています。

そのためには、本ビジョンで位置づけた推進協議会や活動センターでの検討や施策の具体化が重要であることはもちろんですが、関係者はもとより、広く流域の住民の皆様、ビジョンへの参画を含め、NPO法人や教育関係者、企業など、広域の各界・各層の皆さんに継続的に「ビジョン」に関わってもらうことが重要であると考えています。特に、本ビジョンの理念の一つである「流域文化」という観点から、上流の思い、下流の思い、相互が支え合うモデルとなるとともに、「水と森」の重要性について、中部にとどまらず、全国に向けても発信できる日本一の水源地域に育ってほしいと考えています。

本ビジョンを画餅にせず、また、「魂」の入ったものとして、水源地域に関わる様々な取組が具体的に展開され、水源地域の持続的な活性化に加え、より広域の圏域における理解と協力が少しでも拡大することに寄与できればと祈念しています。

平成19年 月 日

揖斐川水源地域ビジョン策定会議

参考資料

「揖斐川水源地域ビジョン（仮称）」

中間とりまとめ

平成18年3月29日

揖斐川水源地域ビジョン策定会議

目 次

「揖斐川水源地域ビジョン（仮称）」中間とりまとめ

はじめに.....	1
ビジョンの目標像.....	2
1 ビジョンの背景及び目的.....	2
2 目標像.....	2
ビジョンの計画内容.....	3
1 基本方針.....	3
2 取組方策.....	4
ビジョンの推進方策.....	6
1 推進方針.....	6
2 推進体制の整備.....	6
3 試行の取組.....	6
おわりに.....	7

はじめに

徳山ダムは、昭和46年の実施計画調査着手以来、35年を経てダム本体の雄姿が現れ、平成18年秋には試験湛水を、そして平成20年3月には完成を迎える予定となっています。

この徳山ダムは、浜名湖の約2倍に当たる6億6千万立方メートルの日本一の貯水容量をもつダムとなるとともに、ダム上流域は、岐阜県及び揖斐川町が取り組む山林公有地化により、豊富な植物相、希少野生生物をはじめ、豊かな自然環境をもつ水源地域として保全されることとなります。

このような中で、「揖斐川水源地域ビジョン策定会議」では、昨年10月に会議が設立されて以降、5回の会議と3回の小会議を開催し、ビジョンの内容を検討してきました。

徳山ダムが完成すると、木曾川水系連絡導水路の具体化により「水」を介してダムの恩恵が広く下流域に及び、また、山林公有地化により、旧徳山村の人々が代々暮らしの中で守り育ててきた豊かな森林が保全され、水源林等としての恩恵も人々が広く享受できることとなります。また会議では、その事業過程の中で、「徳山村」というひとつの村の歴史が終わるといふ現実があったことに対し、深く想いを巡らすべきことを認識してきました。

このような認識の下、会議では、ダム建設に伴い恩恵を受ける人々が、その恩恵に感謝し、流域全体で取り組むビジョンにしたいと考え、ダムそのものの機能はもとより、流域の豊かな自然環境を流域の貴重な財産と捉え、旧徳山村の人々をはじめ、水源地域だけではなく、治水・利水の及ぶ広域の人達が、「みんな」で守り、育て、自然そのものや歴史から学び、多くの人が行き交い、将来に向けてみんなで活かすようなことができればと思ひ議論を進めてきました。

この度の中間とりまとめは、これまでの会議で議論してきた内容をいったん整理しておくという意味でとりまとめを行ったものです。更にいろいろな意見をいただき内容を充実させるとともに、ダム完成前から、また、できることから、ビジョン策定に向けた活動の「試行」に取り組みながらより実効性の高いビジョンとして修正・改良を図っていきます。

ビジョンの目標像

1 ビジョンの背景及び目的

徳山ダムは、「揖斐の防人^{さきもり}」として揖斐川流域47万住民の生活を脅かす洪水の被害を防御し、「中部の水瓶」として揖斐川の豊かな恵みを、利水や発電などに有効に活用するダムである。また、清らかな水の流れを守るための目的も併せもつ多目的ダムであり、完成すれば貯水量日本一のダムとなる。これらは、将来の木曾川水系連絡導水路と一体となって、中部圏に広がる流域にとって、「生命」「暮らし」「産業」を支える骨格となる。

徳山ダムでは、ダム建設の過程で、ダム上流域の野生動植物の保護・保全の観点から、付替道路のトンネル化をはじめ、いろいろな環境保全対策を講じてきている。さらに、他のダムでは例をみない規模で山林公有地化の取組を行っており、森や水と深く関わった旧徳山村の住民が守り育ててきた森林が、豊かな自然環境をもつ水源林として保全されることになる。いわば、旧徳山村住民をはじめ、広域の人達が主役として関わる、日本一大きなダム湖と広大な水源林が織りなす「水と森の自然博物館」として、「日本一の水と森」からなる活動の舞台が出現することになる。

こうした状況を踏まえ、ビジョンでは、ダムが担う新たな機能と旧徳山村の歴史と生活が培ってきた水と森を、流域全体の財産として捉え、水源地域だけでなく、治水・利水の及ぶ広域の人達が参画し、その保全と利活用を図っていくことを基本的な使命とする。また、広域的な視点も踏まえ、多くの人たちの交流と連携を促進しながら、徳山ダムの大切さへの認識や旧徳山村民466世帯への感謝の気持ちの下、流域みんなの思いが相互に支え合う流域文化の創造に向けた取組を展開し、水源地域の持続的な活性化を図っていくことを目指す。

2 目標像

上記の背景及び目的を踏まえ、「揖斐川水源地域ビジョン(仮称)」においては、次をビジョンの目標像とする。

日本のどまん中を支える日本一の水と森が織りなす流域文化の創造
- みんなで守り、学び、やすらぐ、日本一元気な流域を目指して -

ビジョンの計画内容

1 基本方針

の2に掲げた目標像に向けて、以下の基本方針の下、ビジョンの取組方を具体化する。

(1) 揖斐の防人・中部の水瓶としての上流域の環境を、みんなで守り育てる

[内 容]

「水のつながり」により徳山ダムの恵みは三県一市（愛知県、三重県、岐阜県及び名古屋市）に広く及ぶことを踏まえ、ダム湖及び上流から下流までの河川の水環境、多様な動植物が生息・生育する豊かな森林、森と水が織りなすダム湖の景観等を流域共通の財産と位置付け、ダム機能や流域環境の保全に取り組む。特に、徳山ダム上流域については、日本一のダムの建設と日本一の規模の山林公有地化により、人間が近くに居住しない新たな自然環境が出現することになるが、他に例をみない事例として研究、データの蓄積等に取り組むとともに、水源地域だけでなく、流域みんなが参画した保全のための取組を展開する。

(2) 自然の叡智や風土など水源地域そのものを「水と森の自然博物館」として、学び、やすらく

[内 容]

自然を活かし、自然に学ぶ観点から、水源地域全体を「水と森の自然博物館」とし、学び、やすらぎ、交流する場等として活用する。森の四季の変化や星空（目）、おいしい水（舌）、梢のささめきや「静けさ」（耳）、おいしい空気（鼻）、清冽な風（肌）など、五感に訴える地域環境そのものをまるごと活かした取組を展開する。これらを基本とし、水源地域の持続的な活性化という観点から、流域みんなが参画する様々な取組を通じて、多くの人たちが行き交う場所とする。

(3) 流域ぐるみで協働し、流域文化の創造と展開を図る

[内 容]

旧徳山村の住民の方々の尊い協力の上に徳山ダムが成立すること、また、治水に加え、徳山ダムの機能が「水のつながり」を通じて広く三県一市の圏域にまで及ぶこと、さらには、水源地域の水質保全への取組等について、流域全体で認識を共有し、上下流の双方の思いが体現される流域文化を展開する。また、「まず知ってもらおう」ための広報など、多様なPRに取り組むとともに、水源地域だけでなく、流域住民、流域外の周辺地域、行政機関、教育関係者、NPO、ボランティア団体、民間企業など、縦横の広がりを念頭に、多くの主体が参画した流域文化を育む。

2 取組方策

1 に掲げた基本方針を踏まえ、ビジョンを進めるに当たっての取組方策を以下の5本の柱によって構成する。

(1) 日本のどまん中を支える大切な自然環境の保全

(主な取組方向)

流域及び水源としての水環境を保全するため、個々の水質対策や濁水対策などを行うとともに、下流河川の清流の確保や河川環境の改善に取り組み「川らしさ」を復活

ダム上流域において水源保全・水質保全・土砂流出防止等の重要な機能をもつ森林を保全するとともに、森林の管理、森林の整備等を推進

クマタカ等の希少生物をはじめ、野生動植物の自然生態系を保全するため、ダム上流域における生息・生育環境の保全に加え、福井県・滋賀県・岐阜県を跨ぐ連続的な野生動植物の生態系の緑の回廊を形成

(2) 日本一の水と森に学び、やすらぐ場としての活用

(主な取組方向)

総合学習や生涯学習の一環として、ふれあい体験を通じた自然環境保全の重要性や、ダムを通じた治水・利水の機能、また、環境に配慮した土木技術などを学ぶとともに、資料館や語り部等による水源地域における歴史・文化や暮らしなどを学べる場を提供

広く三県一市の経済界を含めた諸団体と連携のもと、豊かな自然環境を活用して、環境等を軸に据えた研修の場等としての利活用を推進

広大なダム湖の出現による微気象の変化、それに伴う植生等の変化や遷移、あるいは水や土砂などの循環系等の学術研究のフィールドとしての活用をはじめ、調査・観測データの蓄積等を図りつつ、「ここならではの」自然環境に関わる調査・研究を拠点的に展開

水辺空間や森林空間での遊びや森林浴・ウォーキング等を通じて、貯水容量日本一の徳山ダム及びダム湖の魅力を核とした健康とやすらぎの豊かな自然環境を提供

(3) 広域で継続的な交流・連携の推進

(主な取組方向)

NPOや一般住民等が広域的に交流・連携し、植樹や間伐の体験等を通して、より良い環境の創造を推進

揖斐川上流域を教育・学習の場として活かし、小中学生の水、森林等の自然環境について理解を深めるため、教育関係者をはじめ、三県一市の上下流の連携を展開

滋賀県とは国道303号の八草トンネルで、福井県とは国道417号の冠山トンネルで繋がることになり、この交通ネットワークを利用し県境を越えた相

互交流・相互発展のため、広域連携を推進

(4) 水源地域の魅力を活用した産業の振興

(主な取組方向)

人々の交流・連携を呼び起こすとともに、交流・連携を通じた産業活動の活性化を図る観点から、現存する施設の有効活用も図りつつ、魅力ある地域づくりを推進

地域の伝統・文化等の地域資源を活用するとともに、既存の水源地域内外の観光拠点を結ぶネットワークを形成し、地域の魅力を高め、人々が楽しめる場づくりを推進

また、水源地域の魅力を特徴づける特産品等の開発、水や森林等を活用した産業の起業等を展開

(5) みんなが支え、みんなを支えるための取組の推進

(主な取組方向)

中部における徳山ダム及び水源地域の治水・利水上の役割、必要性、効果、あるいは、おいしい水の源といった内容や、保全活動やイベント等の水源地域の取組等についての情報発信を推進

より一層の上下流交流を推進するため、地域資源のPRや日本一のダムの雄大さのPR等により、水源地域及び上流域における魅力や価値をアピール

水源地域のPRや環境活動を維持発展させるため、指導者用マニュアルや案内人用ガイドマップ等の作成や研修、指導者・案内人・語り部などの人材の育成を推進

気持ち良くやすらぐことの出来る空間環境を維持するため、来訪者に対しても、危険行為、不法投棄、貴重種等採取防止等に関するマナー・モラルの向上対策を推進

自然環境の保全、学習、研究、健康とやすらぎ、交流や情報発信、人材育成等の諸活動に必要な上下流みんなが活用できる拠点づくり及びそれらを支える仕組みづくりを推進

ビジョンの推進方策

1 推進方針

「揖斐川水源地域ビジョン（仮称）」について、以下の方針に基づき積極的に推進する。

(1) 徳山ダムに係る上下流の関係者が連携しながら取り組む

ビジョンの推進を図るため、関係者が、情報や意見を交換しつつ、相互の連携を図りながら、揖斐川流域の保全と利活用に向けた様々な取組を進めていく。

(2) 地域住民グループやNPO法人等の推進の担い手を育成する

ビジョンの効率的、効果的な推進を図るため、地域住民やNPO法人等の推進の担い手を育成する。

(3) ダム事業の完了前から、実施可能なものから順次、ビジョンの実現に向けた取組を進める

ダム事業完了後、速やかにビジョンの推進が図れるよう、また策定中のビジョンが実施可能なものか確認等を行うため、さらに新たな取組方策を生み出すために、ダム事業の完了前から、推進体制の整備、取組方策の試行を行う。

2 推進体制の整備

1の推進方針に基づき、準備会を設置し、推進協議会等の体制の整備や推進の担い手の育成等を図っていく。

(1) 推進準備会の設置

ビジョンの効率的・持続的な推進を図るため、推進準備会を設置し、推進協議会等の推進母体の活動内容やメンバー等の検討を行い、ビジョン推進体制の整備を進める。

(2) 推進の担い手の育成

ビジョンを効率的・効果的に推進するため、水源地域だけでなく、治水・利水が及ぶ広域の人達の参画を得るという観点から推進の担い手を育成する。

3 試行の取組

ビジョンの検討・策定と並行して、策定中のビジョンの取組が実施可能かどうか、また、推進体制がうまく機能するかどうか等について検証等するため、試行を行う。

おわりに

冒頭で述べたように、この度の間とりまとめは、これまでの会議で議論してきた内容をいったん整理しておくという意味で、あくまでも中間的なものとしてとりまとめを行ったものです。

私どもビジョン会議では、引き続き、ビジョン策定に向けた活動の「試行」への取り組みの検証や、各界・各層の意見の把握等を行いながら、これまでダム建設に協力いただいた方々に感謝するとともに、徳山ダムができて良かったといわれるような、日本一のダムに相応しい「揖斐川水源地域ビジョン（仮称）」を検討していきたいと考えています。

そのためには、関係者はもとより、広く流域の住民の皆様のビジョンへの参画を含め、NPO法人や教育関係者、企業など、各界・各層のご理解とご協力をいただく必要があると考えています。

本ビジョンの検討と具体的展開を通じて、水源地域の持続的な活性化に加え、より広域の圏域における理解と協力の拡大に、少しでも寄与できればと、心より祈念し、中間とりまとめの「おわりに」とします。

平成18年3月29日

揖斐川水源地域ビジョン策定会議